

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

子どもの創造性を大切に教育を 教育のつどい大阪2019全体会

9月22日、「教育のつどい大阪2019」全体会が、大阪狭山市で開催されました。多くの教職員・父母・府民が参加し、大障教からは受付等の要員も含めて10人が参加しました。

平和への思いを歌にのせて

全体会は、南河内ブロックの実行委員会による歓迎行事として、「そうれつしゃがやってきた」の合唱と「鍵盤ハーモニカ楽団」の合奏で開会しました。合唱では、子どもから大盛り上がりしました。

子どもたちの学びの自由が大切

開会のあいさつでは、現地実行委員長の中村新太郎さんは、世界の貧困問題や戦後70年以上にわたって戦争をしてこなかった憲法9条を改憲しようとする政府の動きなどの情勢にふれ、「市民社会は多様性を尊重し、お互いに信頼関係を醸成することが大切」「共生社会を共通の価値観とする新時代をみなさんと一緒に協力していきたい」と述べました。

講演するあおきひろえさん



歓迎行事の合唱

続いて、大阪教職員組合の藤川真人委員長は、「道德の教

科化、英語教育、大阪チャレンジテストなどによって、教育の自由が奪われようとしている「政治の教育への介入は全国に不安の波紋を広げる」と安倍政治を厳しく批判しました。そのうえで、「教育にとって最も大切なものは、子どもたちの学びの自由である」と述べました。また、大阪教職員組合教育文化部長の大瀬良篤さんは、教育のつどい大阪で大切にしたいこととして、「子どもや教育について【語りあうこと】、教育について【問いなおすこと】である」と語り、「教職員・父母・地域の共同の力で今の教育困難を打ち破ろう」と呼びかけました。

記念講演として、イラストレーター・絵本作家のあおきひろえさんが「こどもとおとなのびのびほつこり絵本ライブ」をおこないました。あおきさんは、「気楽にほつこり、たまには人に本を読んでもらう時間もいいですよ」と話し、『夏平くん』『水やりとうばん』などの絵本の読み聞かせをおこないました。『なんでやねん』では、読み聞かせにあわせて、会場みんなで「なんでやねん」とツツコミをいれて盛り上がる場面もみられました。

そして、あおきさんが地域でおこなう工作教室「どんぐり工作室」の紹介では、「子どもの中には『作品』があつて、子どもが材料を見て作りだすところがいい」「子どものあそびの中にはムダなものも1つも無い」「あそびの中に学びがある」と語りました。また、ある幼稚園の画一的なパン屋さんの作品を示し、「大人の正しいイメージに子どもをあてはめているのではないか」と指摘したり、授業で作る材料がキットになった袋を用いて子どもたちが決められたものを作りあげるだけの図工の授業では、「材料をあたらえられる教育は子どもの想像力を奪う」と鋭く指摘しました。あおきさんは、「子どもたちはあそびの中で想像力を膨らませる」「想像力のある子どもは、自分の考えで創り出し、主体性のある人生を生きることができると述べ、「子どもたちの自由な発想や気づきを大切にしたい」「工作を通してたくさんイメージを膨らませる子どもになってほしい」と教育への期待を語りました。



スマートフォンやパソコンの電源として活用されているリチウムイオン電池は、小型・軽量・長寿命で何百回も繰り返し充電できることが特徴です。電気自動車への電力供給や再生可能エネルギーの蓄電池としても活用されています。世界でガソリン車が急増し、排ガスによる大気汚染が大問題となっていた50年前、化石燃料に頼らない世界をつくることを目指して、その開発は始まりました。

2019年のノーベル化学賞は、このリチウムイオン電池開発に貢献した3人の研究者に贈られることが決まりました。地球温暖化という人類の死活問題解決につながる偉大な研究成果が、世界的に認められたと言えます。

米ニューヨーク州立大学のウィットینگム博士、米テキサス大学のグッドイナフ博士とともに受賞が決まったのが、旭化成名誉フェローの吉野彰氏です。吉野氏は、試行錯誤の末、正極にグッドイナフ博士が開発したコバルト酸リチウム、負極に特殊な炭素素材を活用するリチウムイオン電池の原型を完成させました。

こうした研究が行われていた1980年代当時、大企業でも、基礎研究に力を入れていたが、今は多くの研究所が閉鎖され、独創的な研究を続ける環境は失われています。その背景には、研究資金の獲得競争をとおし、成果主義を蔓延させている日本政府の姿勢があります。吉野氏は受賞決定後のテレビ番組の中で、「基礎研究は10個に1個当たればよい」「90%は無駄な研究をしないと一つが出てこない。無駄をなくすとゼロになる」と述べ、日本の基礎研究の土台が崩れつつある現状への危機感を語りました。

今「あらためて」憲法を守り生かす社会をめざそう

2019年 大教組夏期学校

8月19日に開催された大教組夏期学校には、大障教から12人が参加し、秋のとりくみに向けて学習を深めました。午前は情勢学習、午後は4つの選択講座に分かれて深く学びました。共通講座の概要をご紹介します。



午前の情勢学習は、神戸大学名誉教授の二宮厚美さんによる「今あらためて憲法を守り生かす社会をめざして」と題する講演がありました。

はじめに、二宮さんは、7月の参議院選挙では、野党共闘で一人区の候補者を一本化することにより、改憲派が改憲発議に必要な3分の2の議席を割り込む状況や、大阪の選挙区で維新が2人の内1人しか当選しないという状況が生まれれば、改憲は8割方阻止できる見

通しになるのではないかと期待感を持っていたと述べました。しかし、参院選後、当初の「安倍改憲」を達することができなかった安倍政権は、三大改憲勢力(自民、公明、維新)に、N国、国民民主党などを取り込み、衆

参両院の3分の2以上の議席を占有して2020年の改憲を狙う姿勢を示す新たな情勢のなかで、「今あらためて」憲法問題を考えなければならぬと語りました。

二宮さんは、安倍改憲を阻止する国民運動の力と教

訓として、①「9条を変えるのに賛成28%・変えない方がよい64%」(朝日) 5月3日世論調査)や「安倍改憲に賛成31%・反対4

6%」(朝日) 7月24日世論調査)で示されている国民世論の護憲や9条を守れる健全な力の發揮②野党共闘による参院選一人区の10議席確保という「野党と市民の共闘」の力による「安倍改憲ノー」の壁と3000万署名運動を紹介しました。

しかし、国民の3分の2近くが9条改憲に反対の中、安倍首相が任期中の改憲国民投票について全体は賛成

52%・反対33%」(日経) 6〜7割が右派(保守派)で

あるネット社会が若年層の思想形成に大きな影響を与えていると鋭く指摘しました。「他の政権よりなんとなく良さそう」と安倍政権を支持する若年層が多数になるような状況に対抗するため、「あらためて」憲法を守り生かす社会をめざした対話や改憲阻止の運動をぜひ一緒にすすめていこうと参加者を励まし講演を終えました。

情報源は、新聞やNHKニュースは1割以下で、インターネットやSNSが5割近い割合を占めており、

7月29日)であり、その中でも18歳〜39歳までの層が、改憲案の本質を知らずに賛成64%・反対25%となっており、今後の世論を形成する上で「若年層の保守化」について注目しておかなければならないと述べました。また、その背景には20代までのニュース



講演する二宮厚美さん

原水爆禁止2019年世界大会 感想その2

守口支援学校分会 東陽子

長崎に来るのは3度目の機会でした。過去の2回は純粋な観光で、風光明媚でおいしい食事、「なんていい街だろう。また絶対に来よう！」と心に決めました。それから数年、今度は原水爆禁止世界大会で訪れる機会を頂きました。3度目のナガサキ。それは以前見た街とは、全く違った顔を見せてくれていました。この3日間は、本当に貴重な経験となりました。特に心に残ったことを書きたいと思います。

2日目の分科会、私は佐世保基地の調査行動に参加しました。海上からと陸上から、基地の実態を垣間見ることができました。とても暑い日でしたが、日が直接照りつける中、ほとんどの人が船の屋上から動かず、大きな軍艦や基地のフェンスを見ていました。初めて間近で見た軍艦には圧倒されました。大きい。「先頭の砲台は数十キロ先まで狙うことができます。」数十キロ！私のほんの百数十メートルほど先にそんなものがあるのかと驚愕しました。その気になれば私達なんて海の藻屑でしょう。そんな恐怖は感じたことはありませんでした。

間近で見て恐怖の他にもう一つ感じたことがありました。大きな軍艦の真横をゆっくり通過していくと、乗っている船員の方たちがゆっくりと帽子を振っているのが見えました。兵器をなくそうと訴えている私たちに、兵器に乗っている人たちが合図を送っていました。どう応えたらいいのか、とても複雑な気持ちでした。頭では分かっていたつもりでしたが、「同じ人間が乗っている」ということを強く感じました。「戦争が起きれば、あの人たちが真っ先に戦場へ行くのでしょね」同行していた方がおっしゃっていた言葉にやっぱり同じ人間同士、意見や立場の違う人だとしてもそれは悲しいと感じたのでした。

3日目の閉会式、来たときよりも前のめりになって舞台を見ている私がありました。「教え子を戦場に送るな。」本当に、本当にその通りだと感じた3日間でした。砲台の標的になっているのが教え子かもしれません。船に乗っているのが教え子かもしれません。犠牲になった子どもたちと、私の可愛い教え子たちの顔が重なったように感じました。あの子たちの安心できる場所を奪われないよう、しっかりしていきたいです。

日本一夜景の綺麗な街、長崎。悲しい歴史を持つ街、ナガサキ。いろんな顔を持つ場所です。また絶対来たいと思います。

今回は本当にありがとうございました。